

此植物ハ粉果地衣亞系中ノさんごけ科 *Sphaerophoraceae* ニ屬スル、ソノ外形ハ珊瑚藻(海藻)ノ或者ニ彷彿タルモノデ灌木狀ニ分枝シ枝ハ周圍圓ルク徑一「ミリ」位アリ、表面滑カデ帶黃灰白色ヲ呈シ枝ノ表面ニ褐色ノ小點ヲ見ルノハ粉子器デアル、子器ハ枝ノ先端膨脹セル部位ニ埋没シ成熟シタルモノハ徑二「ミリ」ニ及ビ黒褐色ノ胞子塊 *Mazaedium* ガ盛り上テ居ル、此子器ヲ着ケタ枝ノ樣子ガ蟹ノ目玉ニ似テ居ルカラ和名ヲかにめごけト命ジタノデアル、地衣體ノ構造ハ表面ニ發達シタ皮層ヲ有シ、之ニ密接シテ原球藻ヨリナル「ゴニデア」層ガアリ、更ニ内部ノ髓層ハ錯綜セル菌絲ヨリナリ、周邊ニ於テ無色中央部ニテ黃色ニ染マツテ居ル、子器ヲ縱斷スルト子殻(*Excipulum proprium*)ハ暗褐色ヲ呈シ地衣體中ニ埋没シ褐色ノ子囊下層(*Hypothecium*)ト癒合シ、子囊層ハ無色デ絲狀體ト未熟ノ子囊トデ成立シ、更ニ上部ハ暗黒褐色ノ胞子塊 *Mazaedium* トナリ突出シテ居ル胞子ハ二室デ各室殆ド球形ヲナシ接合部ハ深ク絞レ眼鏡形ヲナシテ居リ著シク膜ガ厚イ、*Reinke*モ唱ヘテ居ル如ク此ノ子器ノ構造ヤ胞子ノ形ハさんごけ *Sphaerophorus* ヨリモ寧ロこごけ *Cyphelium* *tigillare* (本誌第八卷第一號歐文欄第四頁第八圖)ニ酷似シ、唯ダ一方ハ地衣體ガ灌木狀ヲナシ一方ハ固着性デアルノ差ノミデアルノデ、コレハ體形ヲアマリ重ク見スギタ分類法ノ缺陷デ木ト草トデ科ヲ異ニシタヤウナモノデアル、恐ク將來ハ *Cypheliaceae* ノ方ニ編入サルベキモノデアラウ(歐文欄ノ挿圖ヲ參照スベシ)

## 〇じがはまごけ (*Chrysanthemum Shimotomaii* MAKINO.) ニ就テ述ベル

廣島文理科大学 理學士 下 斗 米 直 昌

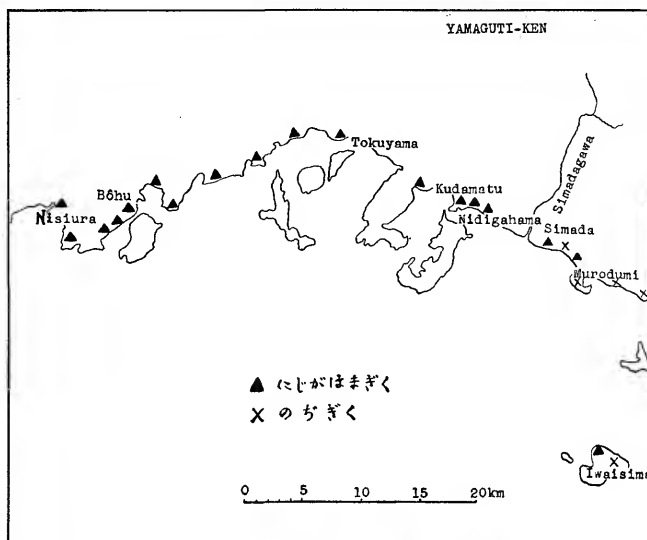
牧野先生ガ本誌第八卷第二號歐文欄第十三、十四頁ニ於テ此ノ標題ノ菊ノ一新種ヲ發表サレタ、此ノ菊ハ野生菊デアツテ山口縣下瀬戸内海沿岸ニ多數自生シテキルモノデアルガ、コレニ就イテハ予ハ先ニ面白イモノデアルコトニ氣ガツキ、牧野先生ニ調査ヲ御願シ、尙現在ソノ本性ニ就イテ遺傳學的細胞學的ニ研究中デアツテ予

にじがはまぎく (Chrysanthemum Shinotomai Makino) 「就テ述ベル



にじがはまぎく (虹ヶ濱菊) 周防三田尻ノ勝間開作ニ於ケル野生状態 (下米繁)

トハ深々關係ニアルカラコレニ就イテ少シ記シテ見タイ



第一圖

周防國ニ於ケルにじがはまぎくノ分布圖

(Bôhu ハ防府デ三田尻町ナドラ線ベタ町名)

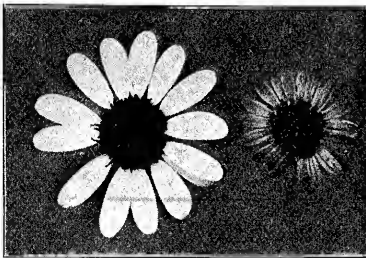
布ガ異ナツテキルコトヲ予ハ岩根又重氏ノ書翰ニヨツテ知ツタ、即チのぢぎくハ室積町以東ニ廣ク繁殖シテキルガ、同町以西ニハしまかんぎくガアツテ、此ノ兩種ノ分布ノ境界ヲナスモノハ島田川デアルト、予ハ氏ノ報知ニヨツテ調査シテ見ルニ、のぢぎくハ元來ハ外洋性ノモノデ主トシテ九州ノ東海岸及ビ四國ノ西又ハ南海岸ニ野生シテキルモノデアルガ、ソノ一部ガ豐豫海峽ヲ貫テ瀬戸内海ニ入り對岸ノ山口縣下ノ室津半島及ビソノ附近ニ上陸シ野生シテキルモノデアラン沿岸ノモノトハ本質的ニハ差ガナイ、所ガ、同縣ノしまかんぎくハ普通ノモノト著シイ相違ガアル、ソノ特徴ハ牧野先生ノ記載ニ詳シイガ、花序ノ舌狀花冠ノ色ガ黃色デアル點ハ普通ノしまかんぎくと同様デアルガ、直チニ氣ノ付クコトデアルガ、葉ノ形モ稍異ナリ(第四圖)、莖ハしまかんぎくデハ細長纖弱デアルニ反シ、コレデハ強固デ稍のぢぎくニ似テキル、尙花序モしまかんぎくニ比較スルト稍大キイ、染色體數ヲ見レバ、普通ノしまかんぎくハ減數シタ數デ十八デアルニ反シ、本野生菊ハ二十七デアル、而シテソノ減數分

山口縣下ノ瀬戸内海沿岸ニハ二種ノ野生菊、即チのぢぎくとしまかんぎく(はまかんぎく)トガアツテ、兩者ノ分



第 二 圖

周防國虹ヶ濱附近ノ傾斜面ニ於ケルにじがはまきくノ野生狀態  
(下斗米撮影)

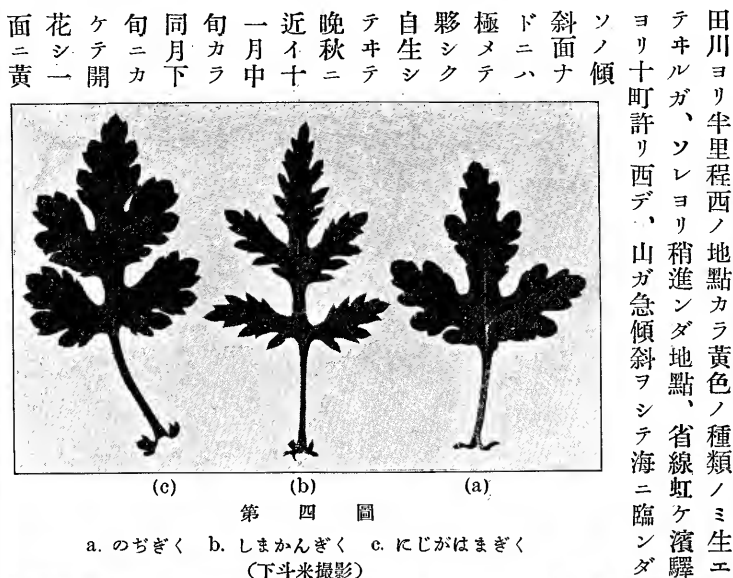


(a) (b)

第 三 圖

a. のぢぎく b. にじがはまきく  
普通ノ種板ヲ用ヒタ爲メニ後者ノ  
黄色ノ舌狀花冠ガ稍黒ク寫テキル  
(下斗米撮影)

裂ハ普通純粹種ニ於ケルト同様ニ正規ノ通りニ行ハレ  
何等ノ異常現象ガ起ラナイ、牧野先生ガ外部形態上ヨ  
リしまかんぎくト區別サレテ新種トサレタコト此ノ  
細胞學上ノ事實トハヨク一致スルモノデアル  
此ノ野生菊トのぢぎくトノ分布上ノ境界線ハ岩根氏ノ  
言フ通り島田川デアルガ、此ノ川ノ西半里、東一里餘  
ノ間ハ此ノ兩種ガ混在シテ白花ノ株ト黄花ノ株トガ入  
リ雜ッテキルノハ面白イ、第五圖ハ島田川ヨリ約一里  
東ノ戸仲附近デ白、黄兩者ガ混ジテキル寫眞デGハ黄  
色、Wハ白色デア  
ル、斯ノ如キ地點  
デハ濃黄淡黄純白  
等種々デアル、淡  
黄ハ兩者ノ雜種デ  
アラウ、黄色ノ株  
ノ混ジナイ純粹ノ  
のぢぎくハ島田川  
ノ一里半東、室積  
町以東ニアル、島



第 五 圖

周防國戸仲附近ニ於テ白、黄兩種ノ混スルヲ示ス  
(本文参照) (下斗米撮影)

にじがはまぎく (Chrysanthemum Shimotomai Makino.) に就て述べる

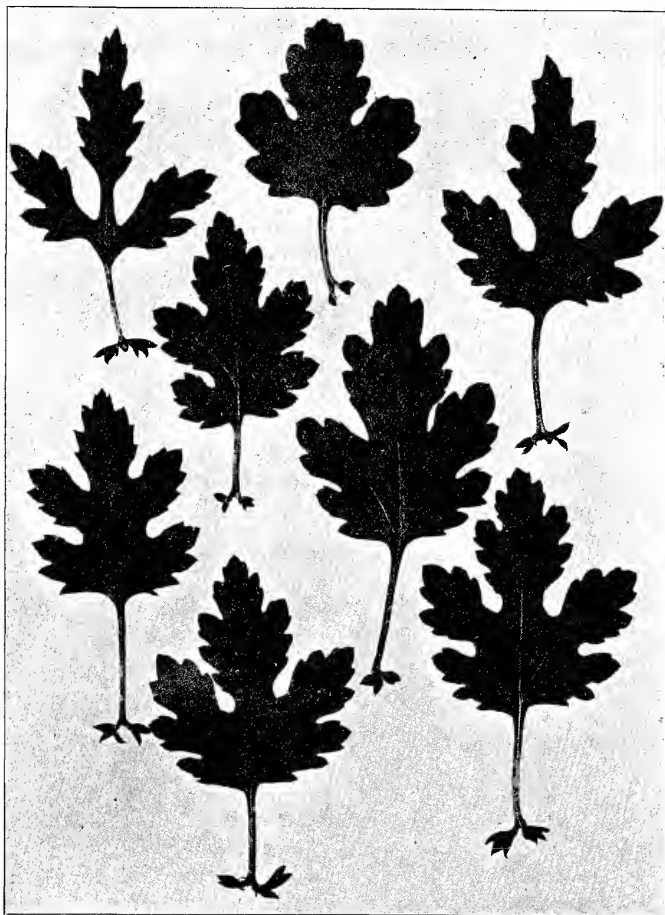
色ヲ呈スルノハ壯觀デアル、牧野先生ハ本野生菊ヲ命名スルニ此ノ地點ノ名ヲ採ラレテにじがはまぎくとサレタノデアル、コレヨリ西ノ海岸ニハ一帶ニ生エテキルガ、十里程西ノ三田尻(防府)附近ニモ多イ、余ノ目下ノ調査デハツノ西ノ西浦マデアルガ、岩根氏ニヨレバ更ニ西ノ海岸ニモアルトイフ

前記ノ如クコノにじがはまぎくハ形態上、及ビ染色體數ニ於テしまかんぎくとハ全ク別種ノモノデアル、ソシテ予ノ實驗デハ自家授精ガ可能デアツテ自己ト同様ノ後裔ノミヲ生ズルシ、菊屬ノ他種例ヘバのぢぎく、しまかんぎく、しほぎく、こはまぎく、いそぎく、さつまのぎく等ト容易ニ雜種ヲ作ルカラ、コレハ遺傳學上安定ナ一ツノ種ト見ラレル

併シ此ノ菊ノ起源ヲ探ヌレバ、しまかんぎく及ビのぢぎくとソノ古サニ於テ同列ニ並ブモノデハナイデアラウ、何故ナラバ、此ノ兩種ノ分布極メテ廣イニ反シテにじがはまぎくハ局限サレタ地域ニノミアルカラデアリ、尙兩者ノ形質ヲ併セ有シテキルカラ、此ノ兩種ヨリ導カレテ出來タ新シイモノデアラウ、併シ此ノ菊ハ單ナルのぢぎく、しまかんぎくノ雜種デナイコトハ次ノコトカラ明ラカデアル、予ハのぢぎくとしまかんぎくとノ間ニ人工交配ヲ行ツテ種間雜種ヲ作ツタガ、コノ  $F_1$  ノ莖及葉ハにじがはまぎくニヨク似テキルガ、ソノ舌狀花冠ノ色ハ豫期ニ反シテ白色デにじがはまぎくノ黃色トハ異ナル、更ニコノ  $F_1$  ハ體細胞染色體數四十五デ、減數分裂ノ際ニハ數箇ノ遊離ノ單價染色體ガ出現シ、雜種ニ特有ナ染色體ノ異常的行動が見ラレル、而シコノ  $F_1$  ハ自家不授精デアッタ

余ハ虹ヶ濱、三田尻兩地カラ各數株ヲ採集シテ調べタガ、皆一樣ニ染色體數五十四デコノ數カラ外レタモノガ全然見付カラナカッタシ、減數分裂モ既記ノ如ク正常デアッタ、ソレ故ニにじがはまぎくハカ、ル意味ノ雜種デハアリ得ナイ、蓋シ種間雜種デ染色體ノ不安定ノモノニ於テハ自家授精又ハ戻シ交配ヲナストキ後代ニ於テ兩親ノイズレカト同數ノ染色體數ニ復歸シ安定スルコトガアリ得ルシ又カ、ル際ニ染色體數ヨリ親ト同數デモ

にじがはまぎく (Chrysanthemum Shimotomai Makino.) ニ就テ述ベル



のぢきくノ葉ノ種々ノ型(牧野)

遺傳子ニ就イテハ兩者ノモノヲ併セ有シ得ルカラ、此ノにじがはまぎくモ斯ノ如ク

ニシテ前記兩野生種ヨリ雜交ニヨリテ導カレ、今デハ安定ナ種トナツタモノデハナカラウカト想像サレル、牧野先生ハソノ記載ノ後ニ予ノ意見トシテ此ノ菊ハのぢきくトしまかんぎくノ間ノ雜種デアラウトイフコトヲ附記サレテキルガ、予ノ雜種說ハ此處ニ記シタ意味ニ於テバアル

【牧野曰フ】のぢきくノ葉ハ前頁ニ下斗米君ガ舉ゲラレタ外其分裂ノ狀ニ數種アツテ株ニヨツテ異ナツテ居ルカラ、今茲ニ其主ナルモノ數型ヲ掲ゲテ參考ニ供スル、其詳細ハ更ニ他日ヲ俟テ公ニセン

## 一見蘇類ト間違ヘ易イ苔類 (一)

コトヲ期シテキルガ然シ大體ハ三型ニ分レ一ハ羽裂型、一ハ扇裂型、一ハ三裂型デアツテ中ニハ其中間ニ立チ其兩者ヲ連繫スル中間型ノ者モアル

## 〇一見蘇類ト間違ヘ易イ苔類 (一)

廣島文理科大学 理學士 堀 川 芳 雄

我邦内ニ産スル苔蘇類ハ世界中デモ決シテ少クハナク從ツテ苔蘇兩類ノ區別ヲ文字ダケデイクラ詳シク表現シテモ實地ニ採集ヲ試ミル人ニ取ツテハソレ程有益デハナイコトガ多イ、殊ニ我國デハ蘇類ト考ヘラレテ一般ノ採集ヲ逃レテキル苔類ノ一部類ガアツテソノ種類ハ中々ニ多ク今後日本産苔類ノ研究ハ分類上カラモ分布ノ方カラモ主トシテカ、ル部類ノ探索ニ俟ツコトガ必要デアリ、又コレヲ種類ヲ能ク識ルコトニヨツテ蘇類ト苔類トノ識別モ明白ニスルノニ役立タセンガ爲メニ今後寫眞ヤ圖ニヨツテ述ベルコトニスル

〇とくしはねづけ *Plagiochila pulcherrima* HORIKAWA

植物體ハ幾回モ分岐シテキルノデ一見蘇類ノひめくじやくごけト間違ヘ易イ美麗ナ一種デ最初日向ノ柳岳ト阿里山カラ採ラレタガ今デハ土佐・紀伊ニモ分布スルコトガ解ツテ來タ

葉ノ縁邊ハ強ク卷イテキテ五—八ヶ許リノ齒ガアル、葉ノ細胞ハ中央部デ幅一六μ長サ二二μ位デ細胞膜ハ角隅ニテ特ニ肥厚スル、腹葉ハ殆ド基部迄深ク二分スル、早合異株デ多ク樹皮上ニ生ズル

〇 *Herberta longifissa* (St.) HORIKAWA

植物體ハ剛強デ黒味ヲ帶ビタ赤色ヲ呈シ多數ニ分岐ヲナシテ濕氣ノアル樹皮面ヤ急傾斜ノ岩面ニ密生スルモノデ一寸苔類ノ感ジガシナイ、通常六稜位ノ長サニ達スルガ生エル場所ニヨツテハ更ニ小サイモノモアル、莖ノ横斷面ヲ作ツテ見ルト皮層ニ當ル處ハ四—五層ノ膜ノ厚イ黒褐色ノ細胞カラ出來テキル、背葉ハ密ニ着イテ腹